

以下の通り、機能追加、機能改善が行われました。

ORTX810 Rev. 11. 01. 28 からの変更点

■機能追加

[1] モバイルインターネット機能で、以下のデータ通信端末に対応した。

- au Speed USB STICK U03 (モデムモード)
- グリーンハウス GH-UDG-MCLTED

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/mobile-internet/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[2] IKEv2 で、鍵交換の始動パケットを受信しない機能を追加した。

これにより一部の機器やサービスとの接続が安定する可能性がある。

○鍵交換の始動パケットを受信するか否かの設定

[書式]

```
ipsec ike negotiation receive GATEWAY_ID SWITCH
```

```
no ipsec ike negotiation receive GATEWAY_ID
```

[設定値及び初期値]

GATEWAY_ID セキュリティ・ゲートウェイの識別子

SWITCH

on 鍵交換の始動パケットを受信する

off 鍵交換の始動パケットを受信しない

[初期値] : on

[説明]

IKEv2 で、鍵交換の始動パケットを受信するか否かを設定する。

受信しないに設定した場合は、結果として受動側としては動作せず、必ず始動側として動作するようになる。

[ノート]

本コマンドは IKEv1 の動作には影響を与えない。

off にする場合には、ipsec ike remote address または ipsec ike remote name を IP アドレスで設定しておく必要がある。

■仕様変更

[1] IKEv1 メインモードでの NAT トラバーサルに対応した。

また、NAT トラバーサルを使用するとき、ipsec ike nat-traversal コマンドで、Internet Draft および RFC に準拠する動作になるオプションを指定できるようにした。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ipsec/nat-traversal.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[2] TCP セッションの MSS 制限の設定をする以下のコマンドで、初期値を off から auto に変更した。

- ip INTERFACE tcp mss limit
- ip pp tcp mss limit
- ip tunnel tcp mss limit
- ipv6 INTERFACE tcp mss limit
- ipv6 pp tcp mss limit
- ipv6 tunnel tcp mss limit

[3] 全ノードマルチキャストアドレス (ff02::1)、および全ルーターマルチキャストアドレス (ff02::2) 宛に ping6 コマンドを実行したとき、ルーター自身も応答を返すようにした。

[4] dhcp scope コマンドを実行したとき、関連する予約アドレスとオプションの設定情報が消去されないようにした。

[5] 以下のコマンドで複数の相手先番号を指定できるようにした。

- pp enable
- pp disable
- tunnel enable
- tunnel disable

○相手先の使用許可の設定

[書式]

```
pp enable PEER_NUM [PEER_NUM ...]
no pp enable PEER_NUM
```

[設定値及び初期値]

PEER_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	相手先情報番号
番号 1-番号 2	番号 1 から番号 2 までの相手先情報番号 ★
番号 1-	番号 1 以上のすべての相手先情報番号 ★
-番号 1	番号 1 以下のすべての相手先情報番号 ★
anonymous	anonymous インターフェース
all	すべての相手先情報番号

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できる状態にする。工場出荷時、すべての相手先は disable 状態なので、使用する場合は必ずこのコマンドで enable 状態にしなければならない。

複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

[ノート]

必ず、1. pp disable、2. disconnect、3. pp の設定変更、4. pp enable、5. connect の手順を踏んで設定を変更する。

pp enable コマンドを実行すると内部情報の初期化が行われる。pp の設定変更の有無に関わらず、pp が接続中に pp enable を実行すると、内部情報の初期化により、pp に紐付けられている tunnel 等が切断される場合がある。

○相手先の使用不許可の設定

[書式]

```
pp disable PEER_NUM [PEER_NUM ...]
```

[設定値及び初期値]

PEER_num

[設定値] :

設定値	説明
番号	相手先情報番号
番号 1-番号 2	番号 1 から番号 2 までの相手先情報番号 ★
番号 1-	番号 1 以上のすべての相手先情報番号 ★
-番号 1	番号 1 以下のすべての相手先情報番号 ★
anonymous	anonymous インターフェース
all	すべての相手先情報番号

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できない状態にする。

相手先の設定を行う場合は disable 状態であることが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用許可の設定

[書式]

```
tunnel enable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]
```

```
no tunnel enable TUNNEL_NUM
```

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	トンネルインターフェース番号
番号1-番号2	番号1から番号2までのトンネルインターフェース番号 ★
番号1-	番号1以上のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
-番号1	番号1以下のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
all	すべてのトンネルインターフェース

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できる状態にする。

工場出荷時は、すべてのトンネルインターフェースは disable 状態であり、使用する場合は本コマンドにより、インターフェースを有効にしなければならない。

複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用不許可の設定

[書式]

tunnel disable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	トンネルインターフェース番号
番号1-番号2	番号1から番号2までのトンネルインターフェース番号 ★
番号1-	番号1以上のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
-番号1	番号1以下のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
all	すべてのトンネルインターフェース

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できない状態にする。

トンネル先の設定を行う場合は、disable 状態で行うのが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

[6] ip route コマンドで宛先に 0.0.0.0/0 を指定した場合、default と表示されるようにした。

■バグ修正

[1] IPsec を用いたデータコネク ト拠点間接続で、tunnel ngn fallback コマンドによる発信によって接続しているときに、tunnel ngn fallback コマンドを削除したり変更したりすると、切断時にリポートすることがあるバグを修正した。

Rev. 11.01.06 以降で発生する。

[2] 通信中に IPIP トンネルの設定を変更するとリポートすることがあるバグを修正した。

[3] IPv6 over IPv4 トンネルなどのインターフェースで OSPFv3 を使用する設定をしている場合に、稀にリポートすることがあるバグを修正した。

[4] pp always-on コマンドが on に設定されている PP インターフェースが存在し、当該 PP インターフェースで自動接続の確立に失敗したとき、ごく稀にリポートすることがあるバグを修正した。

[5] ブリッジインターフェースを端点として接続が確立した L2TPv3 で、以下の条件を満たす宛先に対して転送しようとしたフレームがフラグメントされたとき、リポートするバグを修正した。

- ブリッジインターフェースに収容されたトンネルインターフェースの先にある
- ブリッジのラーニングテーブルに存在しない

[6] RIP を有効にしているとき、LAN バックアップのバックアップ先インターフェースに未設定の PP インターフェースを指定しておく、バックアップに切り替わるタイミングでリポートするバグを修正した。

[7] ip INTERFACE tcp mss limit コマンド(初期値 off)に off 以外の値を設定しているとき、不正なフォーマットのウィンドウスケールオプションを含んだ TCP パケットを受信するとリポートすることがあるバグを修正した。

Rev. 11.01.28 でのみ発生する。

[8] モバイルインターネット機能で、データ通信端末へのデータまたはコマンドの送受信に失敗したとき、リポートすることがあるバグを修正した。

[9] モバイルインターネット接続の WAN インターフェース接続経路で L2TPv3 接続をするとリポートすることがあるバグを修正した。

[10] dhcp client option コマンドでパラメーターが足りないときにリポートするバグを修正した。

また、no dhcp client option コマンドでパラメーターが足りないときのエラーメッセージを修正した。

[11] ipv6 route コマンドで、宛先に ::/0 を指定したときにリポートするバグを修正した。

[12] IPsec によるデータコネク トの拠点間接続で、トンネルインターフェースに out 方向のフィルターが設定されていると、稀にハングアップすることがあるバグを修正した。

- [13] FQDN フィルターを設定しているときに show dns cache コマンドを実行すると、コンソールがハングアップして通信できなくなるがあるバグを修正した。
- [14] SIP 通信中の呼に対して OPTIONS リクエストを受信したときにレスポンスを返すと、メモリーリークが発生するバグを修正した。
- [15] IPsec の IKEv2 の認証で PKI 証明書を利用しているとき、IKE_AUTH 交換時および IKE SA 削除時にメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。
- [16] tunnel backup コマンドでバックアップ先に LAN インターフェースを指定している場合、バックアップに切り替わる度にメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [17] dhcp scope bind コマンドでクライアント ID を使用する設定を行ったあと、その設定を削除するとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [18] 以下のコマンドの設定を上書きするとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- ipv6 INTERFACE ospf area
 - ipv6 pp ospf area
 - ipv6 tunnel ospf area
- [19] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、モバイル端末からの自動発信処理が行なわれないことがあるバグを修正した。
- [20] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、不要な発呼動作が行われてしまうことがあるバグを修正した。
- [21] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で IPsec を利用している場合に、網との再接続を行うとデータの送受信ができなくなるバグを修正した。
- [22] PP[03] インターフェース経由で IPsec トンネルの接続をしているとき、トンネルインターフェース宛の通信がファストパスで処理されないバグを修正した。
- [23] ipsec ike local address コマンドで vrrp を指定し VRRP の状態に連動させている IPsec IKEv1 トンネルにおいて、トンネル確立前に VRRP マスタールーターが切り替わると、ipsec ike retry コマンドの再送設定回数 (初期値 10) に到達するまで旧マスタールーター (非マスタールーター) からの IKE パケットの再送が停止しないバグを修正した。
- [24] L2TP/IPsec で、1 つのトンネルに対して複数のクライアントが接続できてしまうことがあるバグを修正した。現象が発生した場合は先に接続していたクライアントが切断される。
- [25] ブリッジインターフェースを端点として接続が確立した L2TPv3 で、ブリッジのラーニングテーブルに存在しない宛先に対するパケットをトンネルの先に転送すると、不要なパケットが送信されるバグを修正した。

- [26] L2TP/IPsec および L2TPv3 を用いた L2VPN で、トンネルから受信した TCP パケットに対して ip/ipv6 tunnel tcp mss limit コマンドではなく ip/ipv6 pp tcp mss limit コマンドによる TCP セッションの MSS 制限が適用されていたバグを修正した。
- [27] ファストパスが有効の状態での IP/IP トンネリングによる通信を行っているとき、tunnel endpoint address コマンドでトンネル端点のローカルアドレスを変更しても、設定変更前のローカルアドレスに従ってファストパスによる転送処理が実行されてしまうバグを修正した。
- [28] NGN への接続で、DHCP の更新が発生したときに、DHCP により生成されたデフォルト経路が削除されることがあるバグを修正した。通常はプロバイダ等を経由したインターネットへのデフォルト経路が静的に設定されているために通信に影響はない。NGN 網を介した通信は、DHCP オプションで通知されている経路があるため、この問題が発生しても通信に影響はない。
- [29] dhcp client release linkdown コマンドが on に設定されているとき、同コマンドのタイマー値よりも長くリンクダウンしたにもかかわらず、経路情報等が削除されないバグを修正した。本バグにより、リンクアップ後に新たに DHCP サーバーから得た経路情報が反映されないことがあった。
- [30] NAT/IP マスカレード機能で、FTP の PORT コマンドに記述される文字列が 001 や 099 のように 1~2 桁の数字が 3 文字で記述された場合に、ポート番号を間違えた数値に書き換えてしまうバグを修正した。
- [31] イーサネットフィルタ機能で DHCP 予約情報を使用しているとき、dhcp scope bind コマンドの TYPE オプションを ethernet から変更してもイーサネットフィルタが継続して動作してしまうバグを修正した。
- [32] 一度でもリンクアップしたことがあるブリッジインターフェースで、リンクダウン状態でも、ip icmp echo-reply send-only-linkup コマンドの設定にかかわらず ICMP echo request に応答を返してしまうバグを修正した。
- [33] bridge member コマンドのインターフェースが自動集約されないことがあるバグを修正した。
- [34] 同じネットワークに対する複数の経路が取り込まれた状態で、それらが同時に削除される時、OSPF や BGP で受信した経路がルーティングテーブルに残ることがあるバグを修正した。
- [35] OSPFv2 と BGP を併用するとき、ospf router id コマンドと bgp router id コマンドで同じルーター ID が設定されていても、BGP が正常に起動しないバグを修正した。
- [36] YNO エージェント機能で、ループを検出してアラームを通知した状態で YNO エージェント機能が再起動されると、その後ループのアラームの解除や通知ができなくなるバグを修正した。以下の場合に YNO エージェント機能が再起動する。
- 以下のコマンドを実行したとき
 - description yno
 - yno access code
 - yno log
 - yno use コマンドにより、YNO エージェント機能を一旦停止し再度起動したとき
- なお、電源投入やルーターの再起動による YNO エージェント機能の再起動時には本バグは発生しない。
- [37] YNO エージェント機能で、CONFIG の即時反映の実行要求に対する返答を YNO マネージャーへ通知できないバグを修正した。

[38] YNO エージェントからの CONFIG の変更、アラームの発生/解除の通知を YNO マネージャーが受信できなかったとき、それらの通知が YNO エージェントから再送されず、YNO GUI で RunningConfig やアラームの状態が正しく表示されなくなるバグを修正した。

[39] YNO エージェント機能で、YNO マネージャーに対して意図しない値を送信することがあるバグを修正した。

これによって、YNO の GUI 上で以下の項目が誤表示される可能性を排除した。

- [トンネルの異常]のダウン検知日時
- [回線・監視の異常]のコネクション状態変更日時
- [機器詳細]-[監視/バックアップ]タブ内の状態変更検知日時
- [機器詳細]-[CONFIG 管理]タブ内の Running config と Startup config との差分発生のお知らせ

[40] FQDN フィルター機能で、パケットが正しくフィルタリングされないことがあるバグを修正した。

[41] かんたん設定ページにアクセスしたとき、本来すぐに削除されるべき TCP のセッションが数分間削除されずに残るバグを修正した。

Rev. 11.01.28 でのみ発生する。

[42] 以下のコマンドで、結果が 2000ms 以上と誤表示されることがあるバグを修正した。

- traceroute
- traceroute6

[43] ip INTERFACE intrusion detection threshold コマンドが入力できるバグを修正した。

[44] 以下のコマンドで不正な入力したときのエラーメッセージを修正した。

- no ip keepalive
- no ipsec sa policy
- switch control function set macaddress-aging-timer

[45] show status bridge1 コマンドで、表示を途中で中断できないバグを修正した。

[46] ipv6 INTERFACE mld コマンドでパラメーターチェックの不備を修正した。

[47] show command コマンドで以下のコマンドが表示されないバグを修正した。

- ipv6 INTERFACE address,
- ipv6 INTERFACE dad retry count
- ipv6 INTERFACE prefix
- ipv6 INTERFACE prefix change log
- ipv6 INTERFACE secure filter

Rev. 11.01.21 以降で発生する。

[48] 以下のコマンドヘルプの誤記を修正した。

- clear nat descriptor dynamic
- connect
- ipsec sa policy
- no ipsec sa policy
- l2tp keepalive use
- pp bind
- switch control function get mirroring-dest
- switch control function get mirroring-use
- switch control function get status-fan-rpm

[49] かんたん設定ページの[プロバイダ情報の設定]から以下のプロバイダを登録するとき、ユーザーID とパスワードに特定の文字列を入力すると、設定内容の確認ページに入力した文字列が表示されないことがあるバグを修正した。

- PPPoE を用いる端末型ブロードバンド接続(フレッツ 光ネクスト、B フレッツなど)
- モバイルインターネット接続
- フレッツ 光ネクストにおけるインターネット (IPv6 PPPoE) 接続

[50] 外部メモリー内の CONFIG ファイルから起動し、外部メモリーを抜いた状態でかんたん設定ページから設定を変更したとき、保存先を選択する警告ページの[確認]ボタンが表示されないバグを修正した。

Rev. 11. 01. 21 以降で発生する。

[51] スイッチ制御 GUI の VLAN 設定画面で、SWX2200 以外のヤマハスイッチ配下に接続された SWX2200 またはヤマハ無線 AP のポートをクリックして VLAN グループから外そうとすると、VLAN グループに参加している他のポートも VLAN グループから外されてしまうことがあるバグを修正した。

[52] スイッチ制御 GUI で、SWX2300 シリーズの直下に接続されたヤマハスイッチに対してバックアップ経路を設定するためのボタンが表示されるバグを修正した。

[53] スイッチ制御 GUI で、SWX2200-8PoE のポート 8 の給電状態として常に給電を行わない状態が表示されるバグを修正した。

Rev. 11. 01. 28 でのみ発生する。

以上